

わたしにはできないことがあります
でもできることはもつとたくさんあります

あべいずみさん



アトリエで制作を行ういずみさん

絵との出会い

いずみさんは、お産の際に仮死状態で生まれ、生後4カ月の検診で脳性まひと診断されました。腕や脚の動きが制限され、うまく動かすことができません。移動するときは常に電動車いすを使います。

保育所、小学校、中学校と地域で見守られながら育ちました。高校時代にある画家の絵に感動し、絵を学び始めました。それから20年以上もの間、絵を描き続けて、思うように描けなかった直線や曲線が少しずつ描けるようになったといいます。長年にわたって描いているうちに、身体が、手が、絵を描くために進化していると話してくれました。

「生きもの」の息吹を描く

これまでに500を超える作品

を制作してきたいずみさん。大きな作品は一週間以上かかるものもありますが、今も年間30作品以上を制作するなど、精力的に取り組んでいます。

描く作品の題材はさまざまですが、野菜や草花、魚や動物などの「生きもの」しか描かないという全てに一貫したテーマがあります。主には「これ、絵に描いたらいいんじゃない」と、知り合いが持ってきてくれる、その季節のお花や野菜などで形が面白いものを題材にすることが多いということです。

カレンダーの制作を通して

いずみさんが広く知られるようになったのは、カレンダーの制作がきっかけでした。成長を見守ってくれていた中学校の先生から、せっかくだから絵を形に残せない

このコーナーは、“力を尽くしている”“輝いている”
筑紫野市民や市内の団体を紹介します。



いずみさんが最初に描いた絵

自分ができることは何かないか、と考えました。「きっと大変な目にあったと思うから、何か役に立ちたい」という思いから、カレンダーを販売した収益金



花や野菜などをいきいきと描きます

ものかと提案があり、平成12年からカレンダーを作り始めました。最初は少ない部数から始まったカレンダーは、20年以上を経て毎年多くの人に愛用されるまでになりました。絵を描くこと、そしてカレンダーづくりは、いずみさんの仕事であり自己実現の大きな柱になっています。

令和2年6月には、いずみさんの絵画や詩をまとめた「あべいずみ作品集」も発刊されました。

被災者のためにできること

平成23年の東日本大震災、そして平成28年の熊本地震が起きた際、大きな被害を報道で見ました。被災地で障がいのある人たちがどのようなに過ごしているか、

自分ができることは何かないか、と考えました。「きっと大変な目にあったと思うから、何か役に立ちたい」という思いから、カレンダーを販売した収益金を届けに福島県いわき市の「障害者センター」と熊本市東区の「くまもと障害者労働センター」を訪問し、交流をしてきました。

チャレンジを続けて

思い立ったら、できるかできないかではなく、まずはやってみることを考えるといういずみさん。そうして続けてきたチャレンジは、その時その時に出会った人に助けられ、人生の転機にもなりました。

「私一人ではできなくても、関わってくれる人がいれば、いろいろなことにチャレンジできる。絵を通して人とのつながりができることが楽しいです」と話します。

いずみさんと関わった皆さんもまた、いずみさんのチャレンジする姿勢から、元気や勇気をもらっています。

もつと絵を描き続けたい

絵を描くことは「とにかく楽しい」と話すいずみさん。特に大きな絵や細かな描写が必要な絵を描くときが楽しいと言います。

今後の目標を聞くと、「これか

Profile

画家。昭和53年、筑紫野市生まれ。二日市北小学校、二日市中学校卒業後、高校で絵に魅了され、絵画を始める。平成12年から作品によるカレンダー制作を開始。平成26年には福岡アジア美術館で絵画展を開催、その後も各所で個展を開催している。



明るい笑顔のいずみさん

らもチャレンジを続けていくこと」。今は「大きくなる木を描きたい」と笑顔で話してくれました。